

熊本県内に発生したトマト・ナス青枯病細菌の菌群の類別

農業研究センター 農産園芸研究所 病虫部

担当者：小牧 孝一

研究のねらい

トマト・ナスでは青枯病対策として抵抗性台木を利用した接ぎ木栽培が実施されているが、近年この技術を用いても青枯病の発生が問題となっている。

そのため、青枯病細菌のレース分布を明らかにして、地域に適応した抵抗性台木の選定の資料とする。

研究の成果

- 1 熊本県内に発生していたトマト青枯病細菌の菌群を検定した結果、植木町から 群菌、熊本市から 群菌、不知火町から 群菌、小川町から 群菌、八代市から 群菌と 群菌、三角町から 群菌と 群菌、上村から 群菌が検出された(表1)。
- 2 熊本県内に発生していたナス青枯病細菌の菌群を検定した結果、横島町から 群菌、山鹿市から 群菌、熊本市から 群菌と 群菌、三角町から 群菌、 群菌および 群菌が検出された(表2)。
- 3 熊本県内に発生していたトマト・ナス青枯病細菌は、 群菌、 群菌の検出比率が高く、県内には病原性の強い菌が広範囲に分布している。

普及上の留意点

- 1 抵抗性台木の導入に当たっては、高温で抵抗性反応が崩壊することが知られており、高温時期の定植については検討を要する。
- 2 青枯病の伝染には、土壌中の青枯病細菌が宿主植物の根の傷口などから感染して発病する場合と、発病株が伝染源となって青枯病細菌が地上部から感染して発病する場合がある。従って、収穫・管理作業などに用いる剪定用のハサミなどは、消毒剤(次亜塩素酸カルシウムなど)で消毒して使用するなど、細心の注意が必要である。

表1 トマトから分離した青枯病細菌の菌群

採取地点	菌群	検定用品種の発病株率(%)			
		千両2号	ツノナス	ヒラナス	トルバム・ビガー
植木町		40	0	0	0
熊本市		100	100	100	0
不知火町		100	100	40	60
小川町		60	100	80	0
八代市	A	100	100	100	100
	B	20	40	40	0
	C	40	80	100	40
	D	40	100	100	60
三角町	A	40	100	100	40
	B	20	0	0	0
	C	100	80	100	40
	D	80	100	100	75
上村		40	50	0	0

注) 供試株 4~5 株

表2 ナスから分離した青枯病細菌の菌群

採取地点	菌群	検定用品種の発病株率(%)			
		千両2号	ツノナス	ヒラナス	トルバム・ビガー
横島町		60	50	40	0
山鹿市	A	100	100	100	40
	B	100	100	100	100
熊本市	A	20	20	20	0
	B	100	100	80	100
三角町	A	80	100	100	20
	B	20	0	20	0
	C	20	50	40	0

注) 供試株 4~5 株